

一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部
(2013年4月開校)

普通部

中部

湘南藤沢
中部部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)

継続は力なり ―女子高の「宇宙授業」―

●女子高等学校 教諭 小林秀明 こばやしひであき

女子高の「宇宙授業」が、「一貫教育校の広場」に最初に掲載されたのが2004年(No.243)、今回は2008年(No.258)に次いで3回目となり、ちょうど第23回の宇宙授業を終えたところである。この間、慶應義塾創立150年記念未来先導基金や慶應義塾学事振興資金から多大な援助を頂いた。このように「宇宙授業」を継続できたのも、これらの基金によるところが大きく、あらためて感謝する。

「宇宙」理科の固定概念を外す「生徒主体の運営」というポリシーは、第1回の授業から貫かれており、これらに共感してくれるリピーターと呼べる関係者も、この10年で確実に増えてきた。たとえば、第14回「心の宇宙」の講演者である藤木太郎氏は毎回大阪から参加して下さり、第15回「宇宙と演劇」の新井総氏は「宇宙エレベーター」の大野修一氏(第22回)や「座布団の中の宇宙」の桂雀々氏(第23回・写真)をご紹介くださった。第19回で渡り鳥の話をしてくださった岸野敏彦氏も、ほぼ毎回参加して宇宙や科学の話題を提供して下さっている。このように「友達の輪」状態で、「宇宙授業」の担当者が決まっていけることは本当にありがたく、助かっている。

また、生徒主体の運営の一例として、司会を務める生徒が事前打ち合わせのために講演者の所に伺うことも継続している。司会の生徒にとって、普段、教室では得られない緊張感を体験する良い機会である。また、宇宙授業を受けた生徒たちも同様の緊張感と感動を体験している。その証しは感想文中によく見かける。「テーマが宇宙とどのように結びつくのだろうかかと思っただが、お話を伺ってみるとなるほど……」とか「はじめて実物に触れ、本物の音を聞き驚いた」など、授業前の予想はすぐに外れ、プロの話に釘付けになる。まさに教室では得られない体験である。



科学技術(特に宇宙)の話題は、センサーショナルではあるけれども日常生活の中では継続しながら、さがさる分野から話題を提供し、教室では得られない感動をさらに与え続けていきたい。

性が薄いといえる。この「宇宙授業」では、もう一つのポリシーである「ベクトルの先の宇宙」を継続しながら、さまざまな分野から話題を提供し、教室では得られない感動をさらに与え続けていきたい。